

令和 元 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 溪 明 会

目 次

I. 事業結果	2
1. 法人体制	
2. 令和元年度 事業運営評価と課題	
3. 法人人事	
4. 整備事業	
5. 事業実績	
II. 令和元年度 事業所アクションプラン結果	
障害者支援施設 溪明園からまつ	6
障害者支援施設 溪明園あすなろ	7
多機能型事業所 溪明園めるへん	8
障害者支援施設 花椿きらめき	9
障害者支援施設 花椿あおぞら	10
多機能型事業所 花椿かがやき	11
ホームやつわ、ホームあやこ、ホームいするぎ	12
ホーム柴田屋、ホーム柴田屋みなみ、ホーム庄川、ホーム庄川第2	13
放課後等デイサービス事業所 きっずる一むクローバー	13
障がい者サポートセンターきらり(相談系事業)	14
障がい者サポートセンターきらり(障害者就業・生活支援センター事業)	15
III. 統計資料	
1. 法人本部	18
2. 溪明園 からまつ/あすなろ	20
3. 溪明園 むるへん	23
4. 花椿 きらめき/あおぞら	26
5. 花椿 かがやき (いろは)	29
6. ホーム やつわ/柴田屋	33
7. きっずる一む クローバー	35
8. きらり	37

I 事業結果

令和元年度は、第一次中期経営の最終年であると共に、この3ヶ年を振り返り、第二次中期経営計画の準備に着手した。成果としては、法人管理職はじめ職員の経営に関する意識が向上した一方、働き方改革を進めながら、事業所毎の目標やチャレンジに取り組んだが、一部未消化項目もあり次年度への課題となった。

職員のキャリア開発を目的に、コンサルタントによる指導を受け制度構築に向け、プロジェクトを発足させた。

前年度に引き続き、人材育成委員会、業務改善の各委員会を設置し、職員のスキル向上、業務や支援内容について見直した。また、手をつなぐとなみ野との人事交流、協働事業を実施し、法人相互の情報交換、親睦を図った。

新たな事業として、砺波圏域3市の業務委託要望に応え、同圏域障害者基幹相談支援センターの令和2年度開設に向け準備した。また、同年度4月開設に向け準備を進めていたごごみ事業は、建設段階に入ったが資材の入荷が遅れ、オープンは10月に遅延した。

令和元年度の人事は採用が10名（支援職員9名、看護師1名）、退職が5名（管理者1名、看護師2名、調理員2名）であった。

人材確保が厳しい中、令和2年度開業予定のごごみ事業を見据えて、職員を先取り採用したが、当初の予定数には達せず、また、年度途中での離職者もあり、人材確保に課題が残った。

安定した経営基盤を目指した。自立支援費収入は、各事業所とも定員確保または維持を目指すと共に、報酬制度を研究し新たな加算を取得することで、法人全体では前年度比1.7%増加した。一方で、令和2年度は新型コロナウイルスの経営に及ぼす影響が懸念される。

入所系事業では、溪明園からまつが定員を満たせなかったが、利用率は前年度を上回った。他の事業所は概ね前年度比同様であった。溪明園事業所（入所）では、利用者の死亡や老人施設への移転、身体機能の低下、及び病理に伴う退所者等が増加した一方で、新たに入所者を補充したことで増収となった。花椿事業所（入所）は、利用者の定員を満たし、利用率はほぼ横ばいであったが、新規加算取得により収入は増加した。

通所系事業は、溪明園めるへんは、利用者が前年度比減となり減収となったが、利用者数は定員を上回っている。花椿かがやきは、事業を再編し定員を見直したことで就労支援B型事業の利用率は向上したが、その一方で生活介護事業の利用率は低下した。就労移行支援事業利用者の激減により、いろはでの同事業を休止した。

グループホームは、ホームやつわが利用者の移動等で定員割れし、減収となった。ホーム柴田屋は、定員割れ状態から定員を確保したことに加え、5月より世話人の配置を増やしたことによる加算で増収となった。

放課後等デイサービス事業 きつずる一むクローバーは、実質2年目で地域にも周知がなされ、登録児童等が増えたことで増収となった。

相談系事業は、職員を増員したことで相談等の件数も増え増収となった。

令和元年度は、総じて利用定員確保、支援職員の確保、人件費の高騰、利用者の高齢化対策等に課題を残すものの概ね健全な経営がなされたと思われる。令和2年度は第二次中期経営計画をスタートさせると共に、新型コロナウイルス感染症への万全な対策を講じつつ、ごごみ事業の円滑な開始が命題である。

1 法人体制

(1) 理事会・評議員会等

理事会を4回、評議員会を1回、評議員選任・解任委員会を1回、監査会を1回開催。その他 法人管理職先進施設視察研修、法人幹部役員研修を各1回開催。

(2) 採用

- 1) 新規採用職員 看護師1名 支援職員9名
- 2) 退職者 管理者1名 看護師2名 調理員2名

(3) 会議

- 1) 理事長、施設長(管理者)等で構成される経営委員会を毎週定例的に開催し、法人の経営及び事業の進捗状況を確認した。
- 2) 理事長、施設長(管理者)、課長等で構成される運営委員会を毎月定例的に開催し、事業所毎の経営及び事業の進捗を確認した。
- 3) 課長会議を毎月定例的に開催し、事業所毎の状況把握、課題整理、連絡調整等を行った。
- 4) 各種委員会を原則毎月定期的に開催し、テーマ毎に協議した。
- 5) 事業所毎に毎月支援担当(生活支援、日中活動支援)会議を開催し、利用者個々のニーズに対応すべくサービス体制を整えた。

2 令和元年度 事業運営評価と課題

(1) 安定した経営基盤の確立

- 1) **経営計画に基づく事業の実施** 令和元年度事業計画に基づいた改修等施設整備については、概ねその事業を達成した。一方、第一次中期経営計画(2017-2019)の進捗状況については、毎月経営委員会で確認し、その情報を共有したが、未達成項目も複数あり、その推進方法が課題である。
- 2) **経営実態の適時把握と対応** 経営実態については、毎月定期開催される運営委員会で前月の経営実績等の情報を共有した。
- 3) **利用率の向上** 利用定員については、一部を除き概ね定員を確保したが、いずれの事業所も利用者の出入りが頻繁であった。利用率の一定レベル(95%)の維持を目標としたが、入所支援サービス、日中活動支援サービス共に、定員割れしている事業所を除き概ね達成した。多機能型事業所花椿かがやき(いろは)は、就労移行支援事業利用者を確保できず、その事業を休止すると共に、就労定着支援事業は花椿かがやきに移管した。
- 4) **職場環境の改善** 国策である働き方改の指針に基づき関連諸規程を整備し、働きやすい環境を整えた。
- 5) **コスト意識の徹底** 業務改善委員会を組織し、業務の見直しと職員のコスト削減に対する意識を図った。また、外部講師を招き研修会を実施した。
- 6) **将来的な資金の確保** 経営委員会、運営委員会を通して、各事業所の経営状況を報告、確認しあうことで、法人の財務状況について認識を共有した。ごみ事業開始に向けた資金の確保、及び事業開始後の経営状況を想定した。
- 7) **サービスの客観的評価の実施** 花椿きらめき事業所において、第三者評価を受審し、客観的な評価を通して、多くの気付きと改善点が確認された。

(2) 人材の育成

- 1) **職員研修プログラムの体系化** 人材育成委員会を組織し、体系化した研修プログラムを更に進化させた。SDS(自己啓発研修)を推進すると共に、その輪を他法人にも広げ親睦を図った。また今年度もポスター発表の機会を設けたことで、法人職員の一致と士気が高まった。主に新採用職員向けの研修プロ

グラムを提案、募集したところ多くの希望者の受講があった。

- 2) **資格取得の推進及び自己啓発の促進** 支援サービスの向上等に係る資格取得の推進及び自己啓発の促進については、キャリア開発プログラムとリンクさせながら、その制度確立に向け着手した。
- 3) **職場環境等の充実** 働き方改革を推進するために、職員の福利厚生や休暇制度、処遇改善（案）等について、提案し労使で協議した。
- 4) **人材確保** ごごみ事業開設に向けた前倒し人材確保として、従来の新年度に向けた定期正規職員採用制度から必要人員が確保できるまでの随時正規職員採用制度を導入し、一定の成果は得られたが、募集人員は確保できなかった。また、湊明園の給食業務を調理員等の確保が難しいことから、今年度をもって直営方式を終了し、令和2年度より外部業者に業務委託することとなった。
- 5) **人事交流** 手をつなぐとなみ野との法人相互による職員交流を実施し、学びを通して研鑽に努めた。

(3) サービスの質の向上

- 1) **生活環境等の整備** 既存事業所においては、年齢や障害特性に応じた支援プログラムを提供すると共に必要に応じてトイレ等を改修し環境を整えた。また、高齢重度者対応のグループホームや放課後等デイサービス事業所、本部事務所を含めたごごみ事業所の建設に取り掛かったが、資材等の入荷が遅れ、当初計画の令和2年4月開設が10月に延期された。
- 2) **人権に配慮した支援の推進** 人権権利擁護委員会を定期的を開催することで、虐待防止意識を高め、利用者の人権を護ると共に自己決定支援を推進した。また、手をつなぐとなみ野との合同研修会を開催し、相互で情報を交換しながら職員間の交流を深めた。
- 3) **サービス満足度の追求** サービス適正化委員会を定期的を開催し、個別支援計画について検証すると共に、利用者への生活や日中活動支援に関するアンケート調査を実施し、今後の支援に向けた資料を作成した。

3 法人人事

(1) 理事・監事の改選

・任期満了に伴い理事・監事を改選し、理事7名、監事2名全役員が留任した。

(2) 理事長の互選・常務理事（業務執行理事）の選任

- ・理事の改選に伴い理事長として高嶋義則理事が再任された。
- ・常務理事（業務執行理事）として宮西聡理事が選任された。

(3) 顧問の委嘱

・顧問として穴田清氏を委嘱した。

(4) 評議員の補欠選任

・安田重信評議員の退任に伴い、尾崎順子氏が選任された。

4 整備事業

(1) 湊明会ごごみ事業所新築工事

総事業費：428,000千円（税抜）

落札業者：㈱片山土建

(2) 花椿トイレ改修工事

総事業費：37,000千円（税抜）

落札業者：㈱横川組

(3) 溪明園からまつ/あすなろ 給食業務委託

総事業費： 22,260 千円/年（税抜）

随意契約業者：(株)日本医療食研究所

5 事業実績

(1) 施設入所支援事業

溪明園あすなろ、花椿きらめき/あおぞらは、定員を満たしたが、溪明園からまつは、入退所が頻繁で満床には至らなかった。溪明園からまつは、利用者が前年度より増えたことで利用率も若干増加した。その他の事業所は前年度並みの利用率であった。入所定員に対し溪明園からまつ-2 あすなろ±0。花椿はきらめき±0 あおぞら±0。

事業所	平成30年度		令和元年度	
	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
溪明園からまつ	12,546人	85.9%	13,347人	91.2%
溪明園あすなろ	10,736人	98.0%	10,660人	97.1%
花椿きらめき	10,539人	96.2%	10,356人	94.0%
花椿あおぞら	10,739人	98.1%	10,684人	97.0%

(2) 生活介護事業

花椿きらめき、あおぞらは施設入所支援定員30名に対し、生活介護が定員40名であることに起因し定員割れしているが、前年比きらめきは+1名あおぞらは±0となった。溪明園めるへん、花椿かがやきの利用率は、利用者の心身の不良等による欠席により前年度対比すると下回った。利用定員に対し溪明園からまつ±0 あすなろ±0 めるへん+1 花椿きらめき-3 あおぞら-1 かがやき+1。

事業所	平成30年度		令和元年度	
	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
溪明園からまつ	9,049人	91.2%	9,464人	96.6%
溪明園あすなろ	7,462人	100.0%	7,243人	98.5%
溪明園めるへん	1,586人	104.4%	1,397人	94.2%
花椿きらめき	8,678人	86.8%	8,840人	90.0%
花椿あおぞら	8,859人	88.6%	8,418人	86.0%
花椿かがやき	3,599人	107.7%	3,364人	100.0%

(3) 就労継続支援B型事業

溪明園めるへんは、1名増となった一方で長期欠席者により利用率は微増に留まったが、高水準を維持している。花椿かがやきの利用率は、利用者が2名増加し激増した。利用定員に対し溪明園めるへん+2 花椿かがやき+2。

事業所	平成30年度		令和元年度	
	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
溪明園めるへん	3,705人	104.6%	3,724人	107.7%
花椿かがやき	2,718人	88.1%	3,364人	116.0%

(4) 就労移行支援事業

就労移行支援事業のニーズが激減し、A型事業所等の進出で就職した利用者

の充足がままならず、令和2年3月31日をもって休業した。利用定員に対し花椿いろは-8。

事業所	平成30年度		令和元年度	
	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
花椿いろは	1,200人	40.0%	828人	34.5%

(5) 就労定着支援事業

定員6名に対し利用者2名が契約中である。同事業は地域に定着しておらず、今後の可能性を見出したい。

事業所	平成30年度		令和元年度	
	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
花椿いろは	3人	16.0%	57人	79.1%

(6) 短期入所事業

溪明園からまつの増加は既存利用者の利用頻度が増したことに起因している。あすなろは空部屋がないことから実質受入れ不可であった。花椿きらめき利用者数の減少は、長期間利用者が短期間利用に変更されたり、新たな利用先が増えたことによるものである。同あおぞらは若干減少となった。あすなろ短期入所は満床につき空床ベッドなし。

事業所	平成30年度	令和元年度
	延べ利用日数	延べ利用日数
溪明園からまつ	414人	498人
溪明園あすなろ	0人	0人
花椿きらめき	780人	279人
花椿あおぞら	343人	318人

(6) グループホーム事業

7箇所のグループホームは1箇所で定員割れし、定員の充足が課題である。また、利用者の高齢化が課題であり、高齢化対応事業による再編が望まれる。利用定員に対し、ホームやつわー2 ホーム柴田屋±0

(7) 相談支援事業、療育等支援事業

基幹センター設立に向けて職員を増員し、新人職員の育成や専門別研修に参加し、職員のスキルアップに繋げることができた。また、支援の充実を目標に訪問件数の増加や、地域に不足している資源について新規開設事業所への提案や相談にも応じることで、新たなサービスが提供できるようになった。

(8) 障害者就業・生活支援センター事業

障害者チャレンジトレーニング（職場実習）を行った登録者のうち、精神障害者が6割以上を占めた。また精神障害者は、一般に職場定着に困難を抱えることが多く、他の障害種別と比べても職場定着率が低い。今後は、障害者の雇用と就労の安定を図る為に、研修の充実、関係機関との連携強化が課題である。

II 令和元年度 事業所アクションプラン結果

障害者支援施設 溪明園からまつ

1 実施事業

入所支援事業（40名）、生活介護事業（40名）、短期入所事業（空床型）、居宅介護事業、行動援護事業、日中一時支援事業、移動支援事業

2 アクションプランと評価

1) 利用者定員（40名）を満たす

（ポイント1）相談事業所等との連携による利用者確保

新規入所希望者の面談を5名実施し、1名が入所となり3名は入所に向けての短期入所に繋がった。また、前年度より短期入所を実施していた4名とグループホームからの異動による1名その他1名が入所となり、令和元年度の入所者は6名であった。一方、医療機関への転院や死亡、あすなろ事業所への異動等により4名が退所となった。

2) 利用者へのサービスの充実

（ポイント1）理学療法士による個々に応じたプログラムの提供

3名の利用者が提供されたプログラムにより補助具の設置並びに使用のアドバイスを受け、前年度に比べ転倒等の事故も減少した。下半期においては対象利用者の退所により未実施となった。

（ポイント2）外部講師によるプログラムの提供

音楽療法、臨床美術、3B体操を毎月1回実施した。利用者も各活動を楽しみにしており、積極的な参加も見られ、充実した活動となった。ドッグセラピーはアレルギーを考慮し取りやめとした。

（ポイント3）看護師2名体制による利用者寄り添った健康管理及び受診

必要に応じて看護師による個々の対応を実施し、支援現場とも連携して適切に対処した。また、利用者の悩み等の相談にも適宜応じた。

3) 既存施設等の活用

（ポイント1）既存施設や設備、資源の活用

既存施設の活用や地域への開放等について、関係者との連携を検討したが、具現化できなかった。

4) ごごみ事業開始後を見据えた溪明園全体の再編

（ポイント1）令和2年度ごごみ事業所への利用者移行を想定した生活空間、環境のシュミレーション

施設の老朽化が進み、厨房のダムウェーダーやエレベーターは補修部品がないことから、今後は修理不可の可能性があると判明した。また、Pタイル（床）のはがれ、居室の老朽化による改修の必要性、居室の個室化の要望への対応等が課題となった。しかし、これらを総合的に判断した再編や改修計画は立案できなかった。

3 事業別数値目標達成度

1) 入所支援事業

目標：年間利用者数	12,300人（前年度対比±0%）	稼働率 90.0%
実績：同 上	13,347人	同 上 91.2%

2) 生活介護事業

目標：年間利用者数	8,300人（前年度対比±0%）	稼働率 93.0%
実績：同 上	9,465人	同 上 96.6%

3) 短期入所事業

目標：年間利用者数：	805人（2.2人/月）
実績：同 上	498人（1.4人/月）

障害者支援施設 溪明園あすなろ

1 実施事業

入所支援事業（30名）、生活介護事業（30名）、短期入所事業（空床型）、日中一時支援事業

2 アクションプランと評価

1) 高齢利用者に対応した環境整備と支援技術の向上

(ポイント1) 理学療法士による指導プログラムの実践

高齢利用者の身体機能の維持・増進を目的に北陸中央病院（協力医療機関）から理学療法士を定期的（年5回）に招き、専門的な指導・訓練を受けた。特に姿勢の保持や脚の伸縮等の運動により歩行時の転倒を防ぐ等の安全面に努め、今年度は3名の利用者の個別指導を達成した。

(ポイント2) 高齢化に対応した研修の実施

外部研修では、高齢者等の自立支援と介護者の負担軽減を目的とした研修や砺波圏域内の病院で糖尿病対策をテーマとした研修等に参加した。研修では軽運動の効果についての実践もあり、職場において職員へ周知し、日常生活に取組んだ。また、内部研修では、栄養士より食事面での誤嚥やむせの防止のための具体的な対応について学んだ。

2) 強度行動障害利用者の日課の充実

(ポイント1) 強度行動障害利用者の生活の質の向上

個々に応じた日中活動プログラムを計画し、広い空間（食堂スペースの一部等）の活動環境を整え、職員に周知した。午後の活動時においては、障害特性に応じた支援を個別に取組んだ。課題や検討事項がある場合には、職員間で話し合い、統一した支援を心掛けた。

(ポイント2) 強度行動障害利用者の個別支援計画書の活用

強度行動障害の手順書等の定期的（4回/年）な見直しを目標に掲げ、3回見直した。職員間で支援の課題や提供内容を共有したことで、支援の統一化が図られた。しかし、記録の仕方が不十分で課題となった。

3) ごごみ事業開始後を見据えた溪明園全体の再編

(ポイント1) 令和2年度ごごみ事業所への利用者移行を想定した生活空間、環境のシュミレーション

厨房のダムウェーダー及びエレベーターの老朽化が見られる。また、高齢化と安全面に配慮した生活空間の改善（2階居室の見直し）や強度行動障害等の特性に応じた支援ができるような環境の設定、男女分けの編成等検討した。

3 事業別数値目標達成度

1) 入所支援事業

目標：年間利用者数	10,600人（前年度対比±0%）	稼働率 97.0%
実績：同 上	10,660人	同 上 97.1%

2) 生活介護事業

目標：年間利用者数	7,300人（前年度対比±0%）	稼働率 98.0%
実績：同 上	7,243人	同 上 98.5%

多機能型事業所 溪明園めるへん

1 実施事業

生活介護事業（6名）、就労継続支援B型事業（14名）、日中一時支援事業

2 アクションプランと評価

1) 焼菓子商品の広報・販売促進による増収及び工賃向上（就労支援B型）

(ポイント1) 売れ筋商品の市場調査、PR活動、ニーズに応じた新商品開発

ルリアン（石動駅）において市場調査を実施した。販売目標として、クッキー（大）8,000個に対し、製造数6,996個を確認したが最終的な販売数は集計に不備があった。シフォンケーキ（小）5,300個の販売目標についても同様であり、今後の課題として、製造数・販売数は勿論のこと、廃棄、値引き商品等についても把握が必要である。

2) 菓子やパン等の製造スキルの向上と作業の効率化（就労支援B型）

（ポイント1）アセスメントシートに基づく個別作業の充実及び定期的な支援会議での支援内容の見直し

毎月1回支援会議を開催し、支援内容について検討することで作業の効率化が図られた。アセスメントシートにおいては、清掃業務（石動駅、土木事務所）に関して簡易的なものを作成したが、菓子工房に関しては作成に至らなかった。

3) 事業所内清掃活動を通じて、施設外就労における同活動スキルの向上及び対象利用者の育成拡大を図る（就労支援B型）

（ポイント1）めるへん事業所の1階トイレや廊下掃除支援による石動駅清掃業務就労利用者の育成

めるへん1階トイレ掃除については未着手となったが、石動駅清掃については、1名増員し3名で取組むことができた。

4) 自主製品（菓子・パン以外）の販売化（生活介護）

（ポイント1）先進事業所視察及び利用者の適正に応じた自主製品の開発

視察により利用者の特性や強みを生かした取組みの参考となった。しかし、自主製品の開発までには至らなかった。

5) 事業所内清掃活動を通じて、生活スキルの向上を図る（生活介護）

（ポイント1）めるへん事業所の2階トイレや廊下掃除、グループホーム等のエアコンフィルター清掃等の実施による衛生環境の整備

職員がポイント等を助言し一緒に取組むことで、毎日1～2回のトイレ掃除が定着した。エアコンフィルター清掃においても、夏、冬と需要期前に取組むことができた。

3 事業別数値目標達成度

1) 就労継続支援B型事業

目標：年間利用者数	3,845人（前年度対比+3%）	稼働率 109.0%
実績：同 上	3,724人	同 上 107.7%

2) 生活介護事業

目標：年間利用者数	1,587人（前年度対比±0%）	稼働率 105.0%
実績：同 上	1,397人	同 上 94.2%

障害者支援施設 花椿きらめき

1 実施事業

入所支援事業（30名）、生活介護事業（40名）、短期入所事業（併設型2床+空床型）、日中一時支援事業

2 アクションプランと評価

1) 身体機能の維持向上に取り組む

（ポイント1）理学療法士の助言による身体機能維持の実践

高齢利用者の身体機能の維持、向上を目的に月に1回南砺市民病院から理学療法士を招き、専門的な助言を受けた。今年度は7名の利用者の個別指導を実施した。

(ポイント2) 軽運動プログラムを増やし楽しく運動する

高齢利用者が多い生活班では、座位でも可能なレクリエーション体操に取り組んだ。音楽に合わせて歌いながら体を動かすなど工夫することで、楽しみながら取り組むことができた。

2) 利用者にあった支援手順書を作成し、同手順書に基づく支援を実施する

(ポイント1) 支援手順書に基づく支援

強度行動障害の利用者が自分の生活を楽しみ、穏やかに過ごせるよう個別支援計画に基づき7名の支援手順書を作成し、1年を通じて支援を行った。継続した支援により余暇を楽しんだり、リラックスして過ごせる時間が増えた。

3) 地域活動の推進による地域交流の促進

(ポイント1) アルミ缶回収及び清掃

地域や関係機関の協力を得て、年間を通じてアルミ缶回収に取り組んだ。アルミ缶回収時の帽子や軍手を揃え、利用者の意識を高めると共に、地域の方々への理解を求めた。地域の方とは進んで挨拶することができた。また、地域の道路清掃も行った。

(ポイント2) 地域の保育園との交流

カブト虫の幼虫を飼育し、井口保育園にカブト虫を届けた。メッセージカードを作成し、大切に育てて欲しい旨の気持ちを添え交流を図った。また、南砺市内の児童会にもカブト虫を贈った。

3 事業別数値目標達成度

1) 入所支援事業

目標：年間利用者数	10,620人(前年度対比±0%)	稼働率 97.0%
実績：同 上	10,356人	同 上 94.0%

2) 生活介護事業

目標：年間利用者数	8,900人(前年度対比+3%)	稼働率 89.0%
実績：同 上	8,840人	同 上 90.0%

3) 短期入所事業

目標：年間利用者数：	420人(前年度対比±0%)	稼働率 57.0%
実績：同 上	279人	

障害者支援施設 花椿あおぞら

1 実施事業

入所支援事業(30名)、生活介護事業(40名)、短期入所事業(併設型2床+空床型)、日中一時支援事業

2 アクションプランと評価

1) 支援が困難な利用者に対する適切な支援の実施

(ポイント1) 支援手順の統一による安心した生活の提供

入所支援、日中活動における支援マニュアルの見直しを行い、支援手順書を作成し支援が困難な利用者には丁寧なアセスメントや同計画に基づいて統一した支援を行った。会議等を積み重ねたことで支援方法が改善され、利用者が落ち着いて穏やかに生活する時間が増えた。

2) 体力及び身体機能維持を目的にした支援の実施

(ポイント1) 理学療法士による助言

南砺市民病院より月1回理学療法士を招き指導を受けた。日中活動の中で個々に実践し、翌月に経過を報告し助言を受けた。

(ポイント2) 身体を動かすレクリエーションの実施

4月より月1回外部講師を招きリズム体操を行った。利用者も外部講師の来所を楽しみにしており、自分たちで作った道具を利用し、音楽に合わせ色々な活動を通じて、楽しい時間を過ごした。

3) 生産活動や販売の機会による地域交流の促進

(ポイント1) 農作物の栽培、収穫

自家製栽培による大根、きゅうり、黒豆、にんにく、ジャム等の製造に、個々ができる分野に参加し取組んだ。利用者が関ることが難しい作業については、職員が助けながら実施した。

(ポイント2) 食料加工品の製造販売

漬物は各イベントに合わせ、自家栽培した大根等の野菜を加工し、継続的に製造販売をした。保護者や地域の協力により季節の果物でジャムを製造した。イベント販売が主であるが、年度末はコロナウイルスの影響により、販売ができないこともあり通年での安定した生産、販売には至らなかった。

3 事業別数値目標達成度

1) 入所支援事業

目標：年間利用者数	10,700人(前年度対比±0%)	稼働率	98.0%
実績：同 上	10,648人	同 上	97.0%

2) 生活介護事業

目標：年間利用者数	9,100人(前年度対比+1%)	稼働率	91.0%
実績：同 上	8,418人	同 上	86.0%

3) 短期入所事業

目標：年間利用者数	360人(前年度対比+3%)	稼働率	50.0%
実績：同 上	318人		

多機能型事業所 花椿かがやき

1 実施事業

就労移行支援事業(10名)、就労定着支援事業(6名)、就労継続支援B型事業(12名)、生活介護事業(14名)、居宅介護事業、行動援護事業、日中一時支援事業、移動支援事業

2 アクションプランと評価

1) 自主製品を通して、地域に親しまれる事業所を目指す

(ポイント1) 自主製品の販売促進 外部販売・納品(1回/月以上)

自主製品としてペンケースやポーチ、ラベンダー香り袋等の手芸品を、主にイベントにて販売したところ、リピーターが増加した。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の為の社会貢献として始めた手作りマスクは好評を得た。

(ポイント2) 加工品(味噌)の品質の安定化 技術指導(1回/年以上)

味噌の年間生産量700kgで昨年度より増産となった。また、品質向上のため、味噌製造の技術指導として民間業者による講習会に参加し、職員の製造スキルアップを図った。

2) 年間作業及び個別支援の内容を見直し、作業意欲の向上に繋げる

(ポイント1) 視覚的環境の整備

視覚的に捉え易い作業手順マニュアル(切手作業、毛糸ポンポン作り、封筒作り他全5件)、また、理解し易い作業選択プログラム(キャップ分別、手芸、内職作業他全5件)を作成し、利用者が作業し易い環境や仕様を整えた。

3) 高齢化に対応した残存機能の維持等を目的とした個別プログラムの実践

(ポイント1) 心身の健康維持プログラムの実施 (機能訓練)

怪我防止のため、毎朝 10 分程度の軽体操を行った。また、地域の高齢グループ活動に毎週参加し、体力維持に努めた。

4) 利用定員を満たすための広報活動の推進

(ポイント1) 関係機関への情報提供

関係機関への情報提供の他、ホームページによる事業所紹介を掲載した。見学者、体験利用等の積極的受入れやホームページを活用し、新たな利用者獲得のための広報活動に取り組んだ。

3 事業別数値目標達成度

1) 就労移行支援事業

目標：年間利用者数 1,280 人 (前年度対比+18%) 稼働率 60.0%

実績：同 上 828 人 同 上 34.5%

2) 就労継続支援 B 型事業

目標：年間利用者数 2,764 人 (前年度対比±0%) 稼働率 90.0%

実績：同 上 3,364 人 同 上 116.0%

3) 生活介護事業

目標：年間利用者数 3,799 人 (前年度対比±0%) 稼働率 106.0%

実績：同 上 3,364 人 同 上 100.0%

4) 就労定着支援事業

目標：年間利用者数 36 人 稼働率

実績：同 上 57 人 同 上 79.1%

ホームやつわ、ホームあやこ、ホームいするぎ

1 実施事業

共同生活援助事業 (19 名)

2 アクションプランと評価

1) ホームあやこの利用定員 (7 名) を満たす

(ポイント1) ホームあやこ体験利用の実施または定員の確保

2 名の体験利用を実施したが、入所には至らなかった。また、年度内に 1 名が退所し、現在 2 名の空床となっている。

2) 世話人の確保と配置の見直し

(ポイント1) 世話人確保と配置見直しによるサービスの向上

適切な世話人の確保を目指したが定着せず、現在 1 名不足の状態である。また、3 つの何れのホームでも勤務ができるよう体験勤務を計画的に実施した。

3) 世話人との連携強化及び業務マニュアルの見直し、支援の統一化によるサービスの質の向上

(ポイント1) 研修会への参加

湊明園研修部会主催の虐待防止研修、及び自立支援協議会 (地域支援部会) 主催の研修会に参加した。

(ポイント2) グループホーム関連会議における情報共有の徹底

毎月の支援会議及び隔月の世話人会議の実施により、情報共有を図った。

4) 休日・夜間等支援体制の見直し

(ポイント1) 計画的な余暇支援の実施

毎月 1 回程度のホーム余暇支援を目指したが、行事や業務の都合で実施でき

ない月もあった。

(ポイント2) 緊急時における支援体制マニュアルの見直し

世話人業務マニュアルを適宜見直し、支援の充実を図った。緊急時の支援体制マニュアルの見直し、作成はできなかった。

5) ことみ事業開始後を見据えたホームやつわの再編

(ポイント1) 残留居住者に配慮した編成

定期的に地域支援に関する会議を実施し、ホーム利用の再編を検討した。

3 事業別数値目標達成度

1) 共同生活援助事業

目標：年間利用者数	6,697人(前年度対比+1%)	稼働率98.0%
実績：同 上	6,151人	同 上88.5%

ホーム柴田屋、ホーム柴田屋みなみ、ホーム庄川、ホーム庄川第2

1 実施事業

共同生活援助事業(23名)

2 アクションプランと評価

1) 利用者の余暇活動の充実を図ると共に、過ごし易い環境を整える

(ポイント1) 外出及び地域との交流の促進

江浚いや見守り当番等の地域活動への参加により地域住民との交流を図った。また、ホーム柴田屋の座敷を地域のサークルに無料開放したり、赤い羽根共同募金の活動に参加することで、地域貢献の一助を担った。また、いのくち夏祭りやクリスマスチャリティー等地域の団体が主催する行事に参加し、余暇の充実に努めた。

2) 利用者の生活スキルの向上

(ポイント1) 利用者向け「暮らしの講座(口腔ケア、介護予防、交通指導等)」の開催

12月に職員、世話人を対象に介護予防講習を実施し、習得した技術を活かして、利用者の介護予防に努めた。その他、3月に利用者向けの口腔ケア講座を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

3 事業別数値目標達成度

1) 共同生活援助事業

目標：年間利用者数	7,973人(前年度対比±0%)	稼働率95.0%
実績：同 上	7,986人	同 上95.0%

放課後等デイサービス事業所きつずるーむクローバー

1 実施事業

放課後等デイサービス事業(10名)

2 アクションプランと評価

1) 利用確保

(ポイント1) 年間利用率100%(年間延利用者数2,410名)達成 実利用者人数25名

年度当初利用契約数は17名であったが、相談支援事業所や小中学校の教員と保護者へのPRに努め、利用契約者数は27名(令和2年3月31日現在)と増加した。年間延利用者数は目標には及ばなかったものの、2,321名とニーズの高まりがみられた。

(ポイント2) 地域の学童保育との関係構築

砺波東部小学校の学童保育に2名の児童と職員付添、見学と遊び体験を実施

した。また、学童支援員 2 名がクローバーの様子を見学し、情報交換の機会を設けた。

2) 楽しく利用できる環境作り

(ポイント 1) 室内の構造化

パーティションで仕切り、勉強、個別スペースを設けた。集中できる時間が増えたり、安心して好きな活動ができたり、居場所を中心とした活動が定着しつつある。

3) 保護者支援

(ポイント 1) きめ細やかな送迎サービス

保護者と連絡を密にして、下校時や来所、帰宅時間に合わせたサービス提供に努めた。

(ポイント 2) 保護者との会話（受容）

日頃の活動や個別支援計画説明時の面談を通して、保護者の思いや家庭の状況や変化に耳を傾ける機会を設けた。

3 事業別数値目標達成度

1) 放課後等児童デイサービス

目標：年間利用者数	2,410 人（前年度対比+160%）	稼働率 100.0%
実績：同 上	2,321 人	同 上 91.2%

障がい者サポートセンターきらり（相談系事業）

1 実施事業

障害者相談支援事業、指定一般相談支援事業、指定特定相談支援事業、障害児相談支援事業、障害児療育等支援事業

2 アクションプランと評価

1) 地域のニーズに即した高度な相談支援

(ポイント 1) 自立支援協議会への参加

砺波地域障害者自立支援協議会において、毎月開催される定例会、幹事会及び全体会に参加し圏域内における障害福祉に関する課題を整理し解決に向けて担当者と協議した。

相談支援ワーキングの部会員、就労支援部会の庶務として、部会や研修会を開催し、地域の支援力向上を目的とした活動に取り組んだ。

(ポイント 2) 研修参加によるスキルや技能の向上

相談支援に携わる職員の増加に伴い、相談支援における質のバラツキが懸念されていたことから、相談支援専門員協会や自立支援協議会等、関係機関が開催する研修会に積極的に参加し、知識や技術の習得に努めた（47 研修延べ 131 名）。また、発達障害者支援センター「ほっぷ」の開催する研修会に相談支援専門員 1 名がシンポジストとして参加し、砺波圏域における障害児の支援について意見を発表した。

2) 利用者のストレングスに着目したサービス等利用計画の立案

(ポイント 1) 面談によるモニタリングの実施

面談の際に事業所を訪問し支援を受ける様子を確認し、面談を実施した。面談を伴うモニタリング加算が今年度 1,437 件と前年度 958 件を大きく上回った。面談を実施することにより、利用者ニーズの確認をより深め効果的な支援を実施することができた。

(ポイント 2) 相談員のスキル向上

富山県相談支援専門員協会の役員、研修委員を担い、富山県における相談支援専門員研修（初任者・現任）のファシリテーターを務める等、砺波地域内外を問わず相談支援専門員の質の向上を目的とした研修会の運営に協力した。

強度行動障害支援者養成実践研修 2 名、医療的ケア児等コーディネーター養成研修 2 名、精神障害者地域移行支援者養成研修 2 名がそれぞれ参加し、計画相談支援に係る報酬加算を満額取得すると共に、圏域で初となる主任相談支援専門員資格取得研修に参加し、専門的な知識を要する対象者に対して、質の高いサービス等利用計画作成に務めた。（圏域で唯一の特定事業所 I となる。）

3) 地域で不足している資源を効果的に提供する活動

(ポイント 1) 療育等支援事業内容の見直し

地域のニーズに伴い、外来療育指導事業として、今年度新たに茶道教室（1 回/月）を行い、リズム体操（2 回/月）、ヨガ教室（1 回/月）を開催し、延べ 572 人の障害者が各教室に参加し、自立学習に取り組んだ。ヒーリング演奏会については、講師と調整し次年度の開催を計画している。

施設支援療育指導として、圏域内の小学校を訪問し、教職員に対し、専門的な支援手法について助言した。（3 回）

(ポイント 2) 福祉事業所訪問による新事業開拓

毎月 5 回以上の事業所訪問を実施し、事業所からの相談を受けると共に、地域に不足している資源について協力を要請した。

新たに圏域に医療的ケア児の受入れ事業所が 1 ヶ所、放課後等デイサービス事業所が 2 ヶ所開設され、グループホームの新規開設についても相談に応じた。

3 事業別数値目標達成度

1) 障害者相談支援事業

目標：訪問件数	2,600 件
実績：同 上	3,895 件（達成率 150%）
目標：来所件数	500 件
実績：同 上	1,052 件（達成率 210%）

2) 指定特定相談支援事業

目標：計画立案者数	400 名
実績：同 上	394 名（達成率 99%）
目標：加算請求	1,000 件
実績：同 上	1,724 件（達成率 172%）

3) 障害児等療育支援事業

目標：訪問療育指導件数	20 件
実績：同 上	0 件（達成率 0%）
目標：外来療育等指導目標件数	372 件
実績：同 上	165 件（達成率 44%）

障がい者サポートセンターきらり（障害者就業・生活支援センター事業）

1 実施事業

障害者就業・生活支援センター事業

2 アクションプランと評価

1) 相談者のニーズに応じた就業・生活支援

(ポイント 1) 職場実習による適応性を見極め（35 件/年）

支援対象者に合った求人と一緒に絞り込むのみならず、職場環境のアセスメ

ントを行うための事前見学も実施した。実習受入れ先には、自己紹介書を提出し、得意、不得意及び合理的配慮事項等を伝え、実習者を理解してもらえるよう支援した。

(ポイント2) 在職者交流会等による職場定着促進 (6回/年)

職場訪問時に、じっくりと聴くことができない職場での悩みや不安等について時間をかけて聴く機会を設けた。また、長く安定した職業生活を続けるために必要なストレス発散方法やコミュニケーション講座等を実施した。

2) 事業主の障害者雇用理解促進

(ポイント1) 事業主向け研修会の開催 (2回/年)

事業主向け研修会を高岡障害者就業・生活支援センターと合同で、県西部圏域の一般企業を主な対象に2回実施した。内容は理解が十分に進んでいない発達障害や精神障害の理解に繋がる講演や事業主の取組み事例とした。

3) 関係機関との連携強化

(ポイント1) 関係機関との連絡会議の開催 (12回/年)

連携が不可欠なハローワーク砺波や富山障害者職業センターとの連絡会議では、支援対象者の支援経過の共有や、困難ケースの対応についての意見交換等を行った。また、砺波圏域の障害者の就労支援に携わる福祉サービス事業所との研修会や会議を行い、情報交換やグループワークを通じて連携を図った。

3 事業別数値目標達成度

1) 相談者支援

目標：職場実習の斡旋件数	35 件/年
実績：同 上	35 件/年 (達成率 100%)
目標：就職目標件数	40 件/年
実績：同 上	53 件/年 (達成率 133%)
目標：職場定着訪問件数	500 件/年
実績：同 上	464 件/年 (達成率 93%)
目標：きらりクラブ・生活講座開催数	6 回/年
実績：同 上	5 回/年 (達成率 83%)

2) 事業主支援

目標：研修会開催数	2 回/年
実績：同 上	2 回/年 (達成率 100%)

3) 関係機関連携強化

目標：ハローワーク、就労移行支援事業所等との連絡会議開催数	12 回/年
実績：同 上	11 回/年 (達成率 92%)
目標：就労移行支援事業所等との連絡会議目標開催数	6 回/年
実績：同 上	3 回/年 (達成率 50%)

令和 元 年度
事業報告書 統計資料